

発言者	内容
司会（会長）	国語科の教科用図書について審議する。 東京書籍についていかがか。
委員	古典に力を入れており、大変見やすい。 全体的に、作品の内容がやや難しい。 デジタルコンテンツ、Google 翻訳があり、外国籍の生徒や配慮のいる生徒にとってもよいのではないか。
委員	内容として、個人的にはさらに充実したものを望む。 古典は充実している。
委員	全体を通して、1年生が見やすいことが、大切ではないか。 デジタルコンテンツは、授業参観でも使っているのを見たが、良くできていると思う。 中学生からすると興味・関心を持ちにくい作品や、抽象的な表現が多く内容的に難しい作品がやや多いのではないか。
司会（会長）	調査員の方からは、内容が難しい作品が多く、分量が多いという意見があったが、その分、構成や内容が充実している。
司会（会長）	三省堂についていかがか。
委員	デジタルコンテンツに工夫がみられる。新出漢字の筆順がわかるように工夫されており、外国籍の生徒をはじめ、漢字が苦手な生徒にもわかりやすい。 古典が少ないのが、やや残念である。
委員	全体的な配置をみると、見やすさを感じた。 文字の大きさや、色の使い方、文章の配置など、ユニバーサルデザインの観点から配慮されているからだと感じる。 国語の中で、読み書きについて重視しており、漢字の筆順などがデジタルコンテンツでまとめられており、よさを感じた。
委員	文章の配置、構成等、見やすさに秀でていた。
司会（会長）	色づかいが良いのではないか。また資料が多く充実している。 古典で「敦盛の最期」を取り上げている、兵庫県の内容であり評価できる。 他の委員の指摘の通り、非常に見やすい教科書である。
司会（会長）	教育出版についていかがか。

委員	内容的には、中学生としては、興味を持ちやすい内容であった。 デジタルコンテンツについては、丁寧さ、見やすさにやや劣る部分があったが、内容は受け止めやすいように思う。
委員	子どもの権利条約について、配慮が足りないと捉えられる可能性があるところがあるが、多様性の時代において、大きなマイナスに繋がるのではないかと。
委員	これがはっきりと書かれているので、心配した。
司会（会長）	子どもの権利条約については、調査員が言われるとおりのかもしれないが、教科書として、全体的にバランスがよい。 古典では、多くの作品に触れることができ、生徒の興味・関心を惹く工夫がみられる。 特に、「奥のほそ道」ではイラストとともに丁寧に取り上げることができていた。
委員	デジタルコンテンツは、二次元コードにタイトルがついていないので、やや活用しにくい。
司会（会長）	光村図書についていかがか。
委員	見通しをもって、学びやすい教科書である。 どの教科でも、重要である語彙力や言葉に大切にしている教科書ではないかと。 特に、「学びのカギ」は、生徒にどのような力をつけたいのかわかりやすく、見通しをもって学習できる。
委員	文字と文字の間があり、わかりやすい。資料も充実している。 特に古典もわかりやすい。学習を深めやすい。 「語彙ブック」がついており、生徒の言葉の世界を広げる工夫がみられる。
委員	資料が多い。 本文が多いのが良いのか、資料が多い方が良いのか。
司会（会長）	資料の扱いについては、難しいところがある。 また、カラーページが多いほうがよいのか、文字が多いほうがよいのか、意見がわかれるところである。 教科書展示会でも意見があったように、カバンが重たいというのは課題だと思う。古典の部分では、観音開きのページがあり、調査員がダイナミックであると報告しているが、本当に必要なのかというのもポイントであろう。 定評のある会社であるが、試行錯誤している部分がみられる。
司会（会長）	総括をする。 調査員の報告をもとに選定することを重視したい。
委員	資料の分量についての報告は重視すべきか。

委員	資料の分量については、教師の力量が問われる部分であると考える。 本文の充実度が大切ではないか。
司会	わかりにくい生徒にとっては、見やすさも大切であるのではないか。それは、 全体的なバランスにも直結すると考える。 生徒の系統的、発展的な学びが充実している点より、光村図書を1番とする。 また、学習指導要領との関連、見やすさを重視して、三省堂を2番とする。

